

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

代表者氏名	江尻（篠原）桂子・清水（中西） 由紀	所属	茨城キリスト教大（江尻）埼玉大 学（清水）
研究集会等名称	発達心理学基礎研究検討会〔通称：土曜研〕		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 26名（うち認定心理士 5名）</p> <p>非会員 50名（うち認定心理士 5名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等</p> <p>①目的</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本研究会では、発達心理学研究の中でも、特に実証的研究、データに基づく実験・観察・調査研究に重点をおき、これらに従事する第一線の若手研究者をゲストにむかえた。そして最新の研究成果発表をもとに、参加者を交えた活発な議論を行った。 ・ホームページを開設し、これまでの開催概要および今後の開催予定について掲示している。 http://doyou.kt.fc2.com/index.html <p>②成果：2012年度は1回の研究会を開催した。アメリカからの研究者を招へいし、国際会議が実現した。なおいずれの発表も英語で行われた。</p> <p><第23回研究会></p> <p>2013年1月26日（筑波大学東京キャンパス文京校舎1階119室）</p> <p>Brian Davis 先生（ニューヨーク市立大学）</p> <p>"Culture, narrative, and sexual identity engagement: A comparative study of gay men's individual and social identities in Tokyo and New York City"</p> <p>東優子 先生（大阪府立大学）</p> <p>"A Hidden Trap in the Health-Based Approach to Transgender Phenomenon in Japan"</p> <p>全国から、また様々な分野から、研究者や学生約15名が集い、セクシャル・マイノリティの人々のアイデンティティとその発達、これらの人々への認知における日米の違い、トランス・ジェンダーの人々に対する捉え方の変遷、およびそれらを含む性教育のあり方等について、活発な議論がなされた。</p> <p>③将来の計画：これまでと同様、年に1～3回の頻度で定期的に研究会を開催してゆく。研究会の開催スタイルとしては新進気鋭の研究者をゲストスピーカーに迎え、最新の研究成果について発表いただき、これをもとに参加者らで議論を行ってゆく。研究会の将来目標は次の二点である。①異なる研究機関に所属する研究者同士の交流の増進を図るとともに、研究者間・研究機関間のネットワーク形成および学術情報の共有の場を提供する。②研究会活動を通して、日本の発達心理学研究における若手研究者の支援と交流の活性化を目指す。</p>		